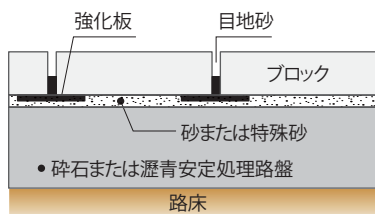


バリアフリーメソッド

インターロッキングブロックと強化板の組み合わせ

バリアフリーメソッドとは

ブロックのクロス目地部にプラスチック製の強化板を挿入する工法です。コンクリートやモルタルを使用せず安定した乾式のブロック舗装を実現します。

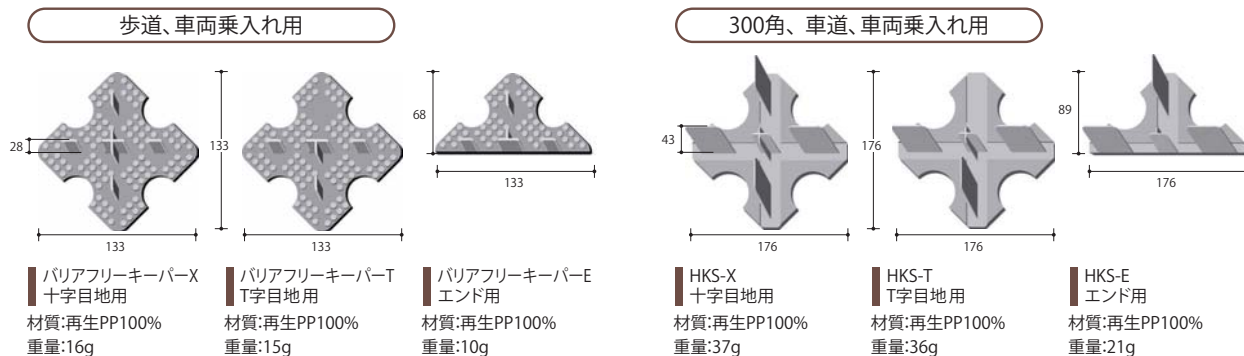


- 用途 ●人通りの多い歩道
●歩道の車両乗入れ箇所
●路地(歩車兼用道路)、商店街、建物アプローチ等の車道
●イモ張りパターンの十字目地部
●視覚障がい者誘導用ブロックや小カットブロックの沈下防止
●特に目地キープなしのレンガ、天然石ブロック舗装



ブロック舗装の段差やズレを長期間確実に防ぎ、舗装のバリアフリーを実現します。

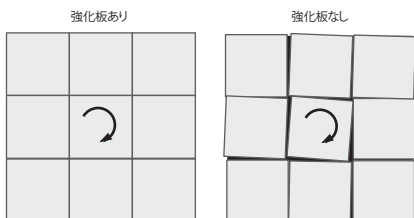
形状・寸法図



製品特徴

バリアフリー

段差・ズレをしっかり防ぎます。強化板工法は、韌性に優れた強化板パリアフリーキーパーによって、繰返し荷重に耐えて、長期間段差・ズレを抑制します。特に、舗装の破損要因である平板のズレを防止する機能に優れています。



維持管理

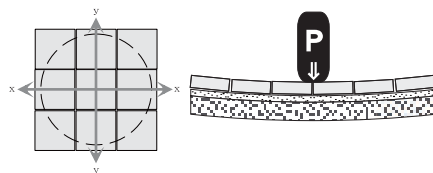
ブロックの差し替えが簡単にでき、維持管理や改良工事が容易に行えます。普段の維持管理は勿論、地震等災害時の修繕を考慮して工法を選択することが大切です。強化板工法は、ブロックの差し替えが簡単で復旧工事が容易に行えます。

すりつけ

誘導ブロックや緑石等のすりつけ部の仕上げがしっかりしています。誘導ブロックや緑石等のすりつけ部の段差や沈下を防止します。

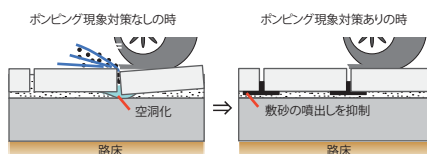
たわみ性構造

乾式のたわみ性構造。インターロッキングブロック舗装は、たわみ性。だから、たわみ性路盤上に施工できます。アスファルトやクラッシュランのたわみ性路盤では、表層もたわみ性でなければなりません。強化板工法は、強化板を介して前後左右にヒンジ機能を有し、たわみ性構造となっています。



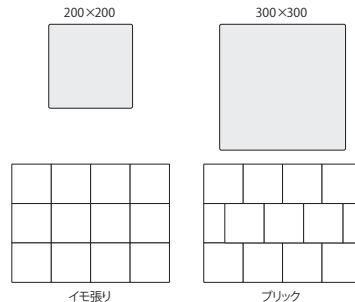
ポンピング現象を抑制

車乗入れ部の破損に繋がるポンピング現象を抑制します。車の乗入れ部では、ポンピング現象による敷砂の噴出しの抑制が極めて重要です。強化板工法では、強化板で、目地部の敷砂を蓋し、敷砂の吹き出しを防止して、ポンピング現象によるブロック下の空洞化を抑制しています。



すぐれた景観性

各種モジュールのインターロッキングブロックが使い、敷設パターンも選択できます。200×200、300×300などのインターロッキングブロックが選択でき、イモ張り、ブリックなどの敷設パターンも可能です。



- 納入単位は、パリアフリーキーパー: 3形状とも1箱(300個入り)、HKS: 3形状とも1箱(100個入り)単位です。
- 製品改良・改善のため、仕様を予告なく変更する場合があります。
- PC画面・印刷物と実物では多少色柄が異なる場合があります。

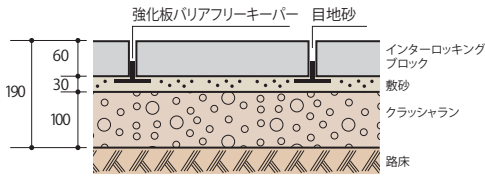
バリアフリーメソッド

インターロッキングブロックと強化板の組み合わせ

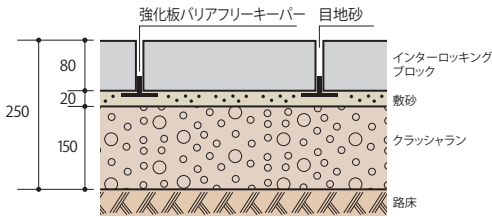
断面構造

普通品

歩道/歩行者・自転車

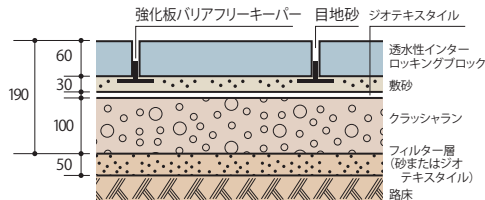


歩道/管理用車両の通行

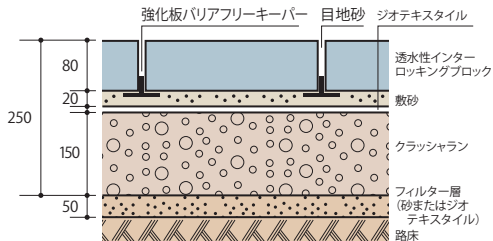


透水性

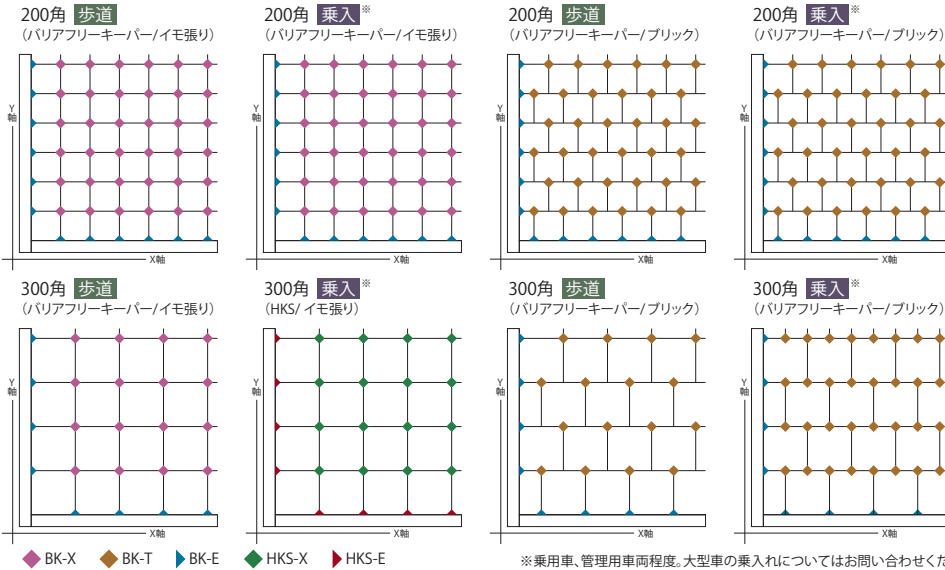
歩道/歩行者・自転車



歩道/管理用車両の通行



標準使用量



※乗用車、管理用車両程度。大型車の乗入れについてはお問い合わせください。

ブロック形状(パターン)	歩道 (t:60mm)				乗入れ (t:80mm)					
	強化板の量		端部1m 当たりの追加量		強化板の量		端部1m 当たりの追加量			
	種類	個/m ²	方向	種類	個/m	種類	個/m ²	方向	種類	個/m
200角 (イモ張り)	BK-X	25.0	X・Y軸	BK-E	5.0	BK-X	25.0	X・Y軸	BK-E	5.0
200角 (ブリック)	BK-T	25.0	X・Y軸	BK-E	5.0	BK-T	25.0	X・Y軸	BK-E	5.0
300角 (イモ張り)	BK-X	11.1	X・Y軸	BK-E	3.3	HKS-X	11.1	X・Y軸	HKS-E	3.3
300角 (ブリック)	BK-T	11.1	X・Y軸	BK-E	3.3	BK-T	22.2	X・Y軸	BK-E	3.3

組み合わせ例



200角+バリアフリーキーパー



300角+バリアフリーキーパー

- 納入単位は、バリアフリーキーパー：3形状とも1箱(300個入り)、HKS：3形状とも1箱(100個入り)単位です。
- 製品改良・改善のため、仕様を予告なく変更する場合があります。
- PC画面・印刷物と実物では多少色柄が異なる場合があります。

施工手順



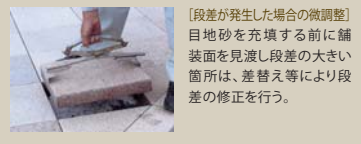
1 路盤仕上げ面にゴミ等の不純物がないかどうかを確認し、敷砂を転圧する。



2 表層面からの高さを基に敷き均し高さを決定し、敷き均し作業を行う。



3 割り付け図に従って敷設順序を決めた後、基準側よりインターロッキングブロックと強化板を敷設する。その後、目地砂をブロック敷設面に散布し、ブロックコンパクターで締め固めを行い、さらに目地が一杯になるまで目地砂を充填する。



【段差が発生した場合の微調整】目地砂を充填する前に舗装面を見渡し段差の大きい箇所は、差替え等により段差の修正を行う。

標準歩掛

バリアフリーキーパー、HKSを各種インターロッキングブロック舗装に適用する場合、従来のインターロッキングブロック施工の歩掛に対して100㎡当たり2.50人工の設置工をプラスする。その内訳を下表に示す。

バリアフリーキーパー、HKS使用による施工歩掛加算内訳(100㎡当たり)

名称	工法	単位	人工数
バリアフリーキーパー HKS 設置工	バリアフリーキーパー、HKS小運搬	人	0.13
	バリアフリーキーパー、HKS設置	人	1.15
	目地調整	人	0.34
	コーナー仕上げ	人	0.24
	カッティング	人	0.60
	片付け、清掃	人	0.04
	計	人	2.50